

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1292500103 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 まごころネットワーク | | |
| 事業所名 | 小規模多機能ホーム ほのぼのかん | | |
| 所在地 | 千葉県流山市大畔537 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年1月9日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年4月17日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ACOBA | | |
| 所在地 | 千葉県我孫子市本町 3-7-10 | | |
| 訪問調査日 | 平成27年2月20日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一敷地内にある他事業所と連携し、支え合う心をモットーに生き生きと安心した生活が送れるよう交流を持つ機会を作っている。
 また、特に力を入れているのが機能訓練です。
 今お持ちの心身の力を維持・向上していくことは、生活の上でとても大切なことと考え、できることはなるべく自分でできるように。また、介護者の負担がなるべく軽減されるように、生活の視点に立った、生活支援の機能訓練に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して7年目となる小規模多機能ホームである。機能訓練指導員を兼ねるホーム長を中心に、利用者のニーズに合わせて通い、泊まり、訪問を組み合わせ、住み慣れた自宅での生活を支援している。建物は民家を改造したもので、明るいサンルームには座り心地の良いソファが置かれ、利用者が集まりやすく、居心地よく過ごせるような工夫がされている。敷地内には法人の運営する複数の介護サービス施設があり、相互に行き来できる。地域貢献にも力を入れており、地元の学校の職場体験、介護実習の受け入れ等事業所の特性を活かした取り組みを行っている。今年度は地域の人を対象に、月2回介護予防のためのノルディックウォーククラブも開始した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念である「支え合う」をモットーに、地域とのつながりを大切にしながら、誰もが我が家のように安心して過ごせる場所づくりに専念している。 | 「支え合う」という理念に沿って、住み慣れた自宅での生活が継続できるよう、管理者を中心に日々の支援に努めている。入職時は必ず理念についての研修を行ない、理念の実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近隣住民とのふれあいや自治会での共同作業、また、近隣幼稚園との交流等、地域とのつながりを大事にしている。 | 地域との連携を大切にしており、自治会にも加入し、地域の行事にも積極的に参加している。紙芝居等のボランティアの訪問もある。地域貢献にも力を入れており、地元の学校の職場体験、介護実習等も受け入れている。 | 近隣幼稚園との交流を開始し、利用者、園児双方にとって、良い影響がでている。交流を継続し拡大することを期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 小・中学生の職場体験、高校・専門・大学生の介護実習、職業訓練の実習等受け入れ、また、市内の県立高校と初任者研修の資格取得サポートの共働事業等、事業所の特性を生かした取り組みを行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ご利用者・ご家族、地域の方、市役所・地域包括支援センターの方からの意見を参考にし、その後の職員総会で話し合い、サービスの向上につながるよう取り組んでいる。 | 今年度から、2ヶ月毎に隣接のグループホームと合同で開催している。事業所報告等において地震の際の避難方法、感染症への対処、地域のイベント紹介等活発な意見交換がなされ、サービス向上に繋げている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議だけでなく、消防訓練時にも立会いをして頂き、また、市が催す集いの場には積極的に参加するなど、市町村との連携を大切にして、協力体制がとれるように努めている。 | 市の介護支援課や包括支援センターとは、運営推進会議等を通して情報交換している。市主催の「医療と介護をつむぐ会」にも積極的に参加し、協力体制を築くよう努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に関する具体的な行為をきちんと理解した上で、身体拘束ゼロを徹底しており、ご利用者が自由に生活を送れるように心掛けている。 | 身体拘束の勉強会を定例会前に実施し、職員の理解を深め、身体拘束しないケアを徹底している。身体拘束に当たるとされる行為があった場合は、その都度話し合い、改善している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止法等について勉強会等を行っている。また、日頃のケアの中から身体面・精神面の観察を行い、小さな変化にも見過ごさないように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護に関する制度について勉強会等を行い、内容の理解に努めている。また、利用の必要性については適宜関係者と話し合いを行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ご利用者・ご家族と読み合わせをし、内容を十分に説明し理解していただいている。不明な点があれば電話やメールでも対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 送迎時・訪問時の際や運営推進会議において、ご利用者やご家族の要望を伺い、出された意見や要望は運営に反映できるように努めている。 | 送迎時、訪問時あるいは電話等で利用者家族の意見、提案を確認した時は「提案シート」に記入し、職員間で共有している。出された意見は、定例会等で話し合われ、運営に反映されている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全職員にアンケートを取り、個別対応の機会を設けている。また、職員総会での話し合いも行い、少しでも意見や提案を聞ける機会をつくり、し、反映できるように努めている。 | 定例会はできるだけ全員が出席できる曜日に設定し、意見、提案を聞いている。欠席者は議事録を回覧している。意見は「提案シート」に記入できる。出された意見は、検討され、運営に反映されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員個々の勤務状況を把握し、労働条件を良くする努力をしている。また、目標意欲や人間関係にも十分配慮し、職員全員がやりがいをもちながら、働きやすい職場環境づくりに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員のキャリアアップを奨励している。外部研修を積極的に奨めており、内部研修、勉強会、日頃からの指導にも力を入れている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 連絡会や研修会等、同業者が集う場には積極的に参加を奨めており、少しでも同業者との交流が持てるように配慮している。また、その時得られた有益な情報は、他の職員にも共有ができるように報告会の機会を設けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 傾聴を心がけ、できるだけご本人が素直な思いを話せるような信頼関係や環境づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 傾聴を心がけ、ご家族との信頼関係づくりや相談・要望等に応えられるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人様やご家族様の状況をよく見極め、その方に適したサービス利用を勧めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 互いが個人として尊重されながら、利用者と介護者という壁を取り払うことで、家族のような関係作りに努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の絆を大切に考え、ご家族とうまく連携しながら、共にご本人を支えていける関係づくりに努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人との集まり、馴染みの店での会食、行き慣れた公園での散歩等、各ご利用者が大切にしてきた繋がりは出来る限り継続できるように努めている。 | 地元で育った利用者達が昔から行っていた公園・お店等へ職員や家族と一緒に、「通い」以外の日に知人の畑の手伝いに行く利用者もおり、日常的に人や場所との関係継続支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個々の性格を把握し、食事や入浴、レクリエーションなど1日の生活を通じて、ご利用者同士が自然に関わりが持てるように配慮している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ご本人にとってより良いサービスに移行が出来るよう支援している。また、契約終了後も必要に応じて支援を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人の気持ちの把握に努め、困難な場合は、できる限りご本人の日々の会話や表情・しぐさ等から理解できるように配慮している。またご家族からの意見も取り入れて検討している。 | しっかりしている利用者は会話の中で、会話が困難な利用者は文字ボードの活用や家族の意見を取り入れ、また送迎時の「訪問」の際の様子等から、どのような暮らしを望んでいるのかを見極め、職員間で検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人・ご家族からの情報だけでなく、これまでに関わった方からもできる限り情報の提供に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ご利用時だけでなく、ご自宅での状況もご本人やご家族と情報を共有し、また、他職種からの情報も参考にしながら現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人・ご家族・各関係者との話し合いから最善策を常に検討し、ご本人にとってよりよいケア計画づくりに努めている。 | 住み慣れた自宅での生活が継続できるように、本人・家族の意向を基に、必要な関係者と検討して介護計画を作成している。モニタリングは毎月実施し、カンファレンスには本人・家族も参加し話合っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や身体状況などを事細かく個別記録に記入し、各ご利用者の情報をスタッフ間で共有することで、その方に合ったよりよいケアの方法やモニタリングに反映できるよう努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 書道や工作・手芸の時間、個別機能訓練、理美容サービス、買い物、外食、ドライブ、散歩。また、突然の利用受入など、その時々のご本人やご家族の状況に合わせて、柔軟にサービスを提供できるよう常に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 各ご利用者が活用できるあらゆる地域資源を把握し、有意義な人生を送れるような支援ができるように努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人・ご家族の希望を尊重し、気になることがあれば積極的に受診ができるように支援している。また、主治医との連携にも十分配慮し、情報共有に努めている。 | かかりつけ医の受診は家族が行い、必要に応じて在宅の診療や歯科医を受ける利用者もいる。職員の中に看護師がおり、身体状態の異変等への判断も早く、「通い」の場での緊急時は救急車を要請している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | いつもと違う様子がみられた時は、職場内の看護師や訪問看護師に報告・相談し、必要と思われる際は、できるだけ早い段階で受診や看護を受けられるように配慮している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 日頃から病院関係者との関係づくりに配慮し、入院時にご家族や医療機関と密に連絡を取り合い、退院時にもカンファレンス等、安心してスムーズに入退院ができるよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご本人やご家族の思いを一番に考え、事業所が出来る最善の方法を説明し、理解をいただいている。また、ご本人・ご家族の意向に少しでも沿えるよう、地域の方にもできる限り協力をいただき、チームでの支援に努めている。 | 重度化や終末期の本人・家族の意向に関して早期に話し合う機会を設け、方針の統一を図り、医療に関わらなければ当事業所で看取る事も説明している。まだ看取りの経験はないが、いつでもチームで支援ができるように全職員で、体制を整えている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急法の外部研修には積極的に参加を促し、また、内部研修を定期的に行い、全職員にあらゆる緊急時に備えた知識と能力を身に付けてもらうよう取り組んでいる。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に様々な状況を想定した避難訓練を実施し、職員、ご利用者共に避難の方法を身につけていただいている。また、災害時の備えや消防設備にも配慮し、災害時の対応については日頃から地域の方々々と検討を重ねている。 | 年1回の消防署の指導を受け、自主訓練は年2回、地震・火災を想定し、職員・利用者はもとより、市職員・自治会長等も参加して避難訓練を実施し、話し合いも行っている。食料・水・発電を3日分確保している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人生においての大先輩であることを常に忘れず、一個人として尊重し、態度や言葉使いに気をつけ、また、入浴・更衣・排泄時等もプライバシーが侵害されないよう細心の注意を払っている。 | 利用者は人生の大先輩と受け止め、個々の自尊心を大切に対応している。ダメや待って等の言葉遣いや、利用者の後ろで腕を組んだり、椅子に座っている時に足を組んだりして対応している時は、その都度注意を促している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日頃から家族のような関係や家庭的な雰囲気づくりに努め、ご本人が意思表示や自己決定をしやすいように配慮している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の体調や気分に合わせて無理強いをせず、できるだけその方のペースや希望に合わせた支援を心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 理美容サービスも利用でき、ご利用者がその人らしく、尊厳をもって生活できるよう身だしなみやおしゃれには十分配慮して支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事やおやつ作り・配膳・下膳など、できる範囲で一緒に出来ることは行っていただいている。また、テラスでの食事や外食、そして、食事の形態や食事器具についても、ご本人の希望を考慮し、少しでも食事が楽しみとなるように努めている。 | 居間とキッチンが隣接しており、できる利用者は積極的に手伝い、食事の準備等している。また接客への対応も行っている。各利用者の食事形態等に配慮し、全利用者が自力でスプーン・箸使用で食事が楽しめるように、職員は先回りせずにゆっくり支援している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養・水分バランスには十分配慮し、ご利用時とご自宅での状況をご本人・ご家族・事業所とで共有し合い、把握に努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っており、夜間帯は義歯をお預かりし、消毒をしている。また、異常がみられた際は歯科医や歯科衛生士に報告・相談を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | できる限りトイレでの排泄を行ってもらっている。また、個々のご利用者の排泄パターンや能力を把握し、その方に合わせた方法や動作訓練を検討し、ご家族の方とも協力しながら排泄の自立に向けた支援を行っている。 | 個々の排泄のパターンや習慣を把握し、トイレで排泄ができるよう支援している。足上げ等の動作訓練を実施することで、立ち上がりがスムーズになり、車椅子の利用者は見守り・声かけで、トイレでの排泄ができている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事内容や水分・運動量には十分配慮し、また、ご利用時とご自宅での排泄状況をご本人やご家族の方とも情報を共有し、排便リズムの把握に努め、便秘の予防に取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | メリハリのある一日を過ごしてもらいたいと考え、なるべく午前中に入浴を奨めているが、個々のご利用者の体調や気分、スケジュールに合わせた支援を行っている。また、浴室と脱衣室には床暖房と天井ヒーターを設置しており、寒い時期でも寒暖の差がなく、安心して入浴できるようにしている。 | 入浴時間は午前中、車椅子の利用者は特殊浴で、他の利用者は2～3人用浴槽で楽しめる。身体状態等に応じて、毎日、または週2～3回の入浴ができるように支援している。現在は拒否される利用者はいない。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々のご利用者の体調や気分、生活リズムに合わせて適宜休息していただいている。また、お部屋の環境や寝具等、少しでも安眠できるような工夫に取り組んでいる。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 各ご利用者の服薬内容を把握し、服薬に変更があった際にはその都度、内容の確認を行っている。また、変化がみられた場合には小さなことでも記録に残し、関係者間での情報共有に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々のご利用者がやりたいと思う事や楽しめる事はできる限り行えるように支援している。また、得意としている事や今まで行ってきた事も継続していけるように役割として行っていたいただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 個々のご利用者の希望を最優先にし、ご家族や地域の方とも協力して外食や買物、ドライブや花見、散歩などの外出支援が、当日であっても個別であっても、できる限りその方の希望に添えるように努めている。 | 季節の行事は皆で車で出かける事が多い。利用者の要望を大切に「通い」に来てから買い物や行きたい所へ全員で、または個別で出かける事もある。年数回は家族も一緒に、外食や季節の花見等に出かける企画もある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個々のご利用者が趣味や嗜好品、日用品などで必要としているものに関しては、予めご本人・ご家族の了承を得てから買い物に行き、できる限りご自身で買い物ができるように支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 日頃から各ご利用者が気軽に電話や手紙のやり取りが行えるように、積極的に支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ほのぼのとした空間づくりを心がけ、音・光・色・温度等に配慮し、また、いたる所に各ご利用者が作成した季節に合わせた装飾品を掲示し、少しでも我が家のように居心地良く過ごせるような工夫に努めている。 | 利用者の手作り工作等が玄関や共用空間に、行事の写真と共に掲示され、会話が弾むよう工夫がされている。明るいサンルームは食事会やおやつ等を楽しんだり、また個々にゆったりと居心地よく過ごせる場所となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テラスや静養室などを自由に使ってゆったりと一日過ごしていただけるよう支援している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人やご家族と相談し、お泊まりの際に少しでも居心地良く過ごせるよう、日頃から使い慣れたものや好みのものをご使用していただき、また、部屋の室温や湿度、寝具の選択にも配慮している。 | 泊まりの居室は4部屋あり、毎日2～3名の利用がある。できるだけ同じ部屋に泊まれるように配慮している。急な泊りも考慮して1部屋は空けるようにしている。持ち物等は自由に好みの物を持参している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内部は、一人でも移動がしやすいように段差がなく、いたる所に手すりやセンサーライトを取り付けている。また、居室やトイレ、洗面所の場所がわかるように札や暖簾などで工夫している。 | | |